

世田谷区の花

さぎそう



等々力地区身近なまちづくり推進協議会

緑化部会

本冊子は、「等々力地区身近なまちづくり推進協議会 緑化部会」において世田谷区の花である「さぎそう」の普及を目指して行っている「さぎ草栽培講習会」の参考書として作成しました。

目次

はじめに	1
栽培講習会風景	2
さぎ草展・花後の手入れ講習会	3
サギソウについて	4
サギソウ栽培の一年	7
植え方	9
鉢置き場	11
日常の管理	12
栽培のポイント	13
よくある質問	13
病虫害	15
花後の手入れ	19
植替え	22
サギソウ伝説	23
世田谷区立八幡中学校壁画	24
九品仏浄真寺のさぎ草園	25
世田谷区区道上のサギソウ	26
サギソウを郷土の花としている自治体	27
「サギソウ押花」の作り方	28
サギソウを詠んだ和歌・俳句	29
参考文献	31

はじめに

世田谷区では、東京 100 年を記念し、昭和 43 年（1968 年）に区の花として「さぎそう」が制定されました。

以前は区内の水辺に自生し、「さぎ草伝説」も残っていますが、残念ながら現在その姿を見ることはできません。

等々力地区身近なまちづくり推進協議会緑化部会では、毎年 2 月に「さぎ草栽培講習会」を、夏には「さぎ草展示会」を開催し、区の花「さぎそう」の普及に取り組んできました。

又、講習会で提供されるさぎ草の球根は、以前は園芸業者から購入していましたが、平成 27 年（2015 年）からは、当「身近なまちづくり推進協議会緑化部会」の吉村俊雄部会長が丹精された等々力原産「青葉種」の球根を使用するようになりました。



栽培講習会（2月下旬）



講習会で用意された物

リーフレット、さぎ草球根 10球
駄温半鉢5号、鉢底網
赤玉土中粒、水苔
肥料（マグアンプK中粒）

さぎ草展（7月下旬）



花後の手入れ講習会（さぎ草展終了後）



サギソウについて

植物分類学上の位置付け

学名：Habenaria radiata (Pecteilis radiata)

和名：サギソウ (鷺草)

科名 / 属名：ラン科 / ミズトンボ属 (ハベナリア属)

分布

日本・台湾・朝鮮半島に分布しているラン科植物で、我が国では本州・四国・九州の低地湿原に広く自生していましたが、昭和期の開発により、自生地はその大多数が失われてしまいました。

特徴

親株から走出枝 (そうしゅつし、ランナー) を伸ばして、その先端に翌年の球根をつくります。

3～5枚の細長い葉を根元近くにつけ、中心からまっすぐに茎を伸ばして、先端に1～5輪の花を咲かせます。

開花期は7月から8月です。

花は純白で唇弁 (しんべん) の先端が3つに割れ、その左右の裂片には多数の深い切れ込みがあって、その形は白鷺を思わせます。

冬は球根だけになって冬越しします。

サギソウ 花の構成



花茎：直立し 15 ~ 30 cm

葉：互生し、3 ~ 5 枚

花被



唇弁：
白鷺が翼を広げたように見えることが名前の由来

距：
先端に蜜をため蛾が吸引しに来て、花粉を媒介し受粉させる

花拡大



花粉塊



元の球根

ランナーの先端に新しい球根が出来る



球根

園芸植物としての「サギソウ」

サギソウは現存する日本最古の総合園芸書「華壇綱目－延宝9年(1681年)」に「鷺宿 花白く湿気の地を好ム也さぎそうともいう…」とあるように江戸時代から、観賞用として栽培されていました。



品種は原種の「青葉」の他「銀河」をはじめとする、葉の斑の入り方、葉の色により数十種類の斑入り種、獅子咲の「飛翔」をはじめとする変わり花数種が栽培されています。

尚、花色は白がほとんどですが、緑色の品種も1種類発見されているとのことです。

国立国会図書館デジタルコレクションより

開花調整

サギソウは、球根を低温(4°C程度)で保存し、植付後、気温と日照の条件を満たすことで一年中開花させることができます。温室で管理する事が出来ない場合でも、7月～10月初旬までの期間で可能です。その他の期間は温度不足で開花させることは出来ません。

尚、姫路市立手柄山温室植物園では、専用の温室で、一年中開花を見ることができます。

花言葉

「清純」「繊細」「夢でもあなたを想う」

サギソウ栽培の一年

月	1	2	3	4	5	6
さぎ草 の1年		植え付け	発芽		成長始め	
		<p>※植え替え 掘り出した球根は軽く洗い乾燥させないようにして2週間以内に植え込んでください。</p> <p>※用土・水苔は新しいものを使い、鉢は天日や熱湯などで消毒しましょう。</p>	 <p>※水苔の中の状態</p>		 <p style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px; text-align: center;">つぼみ</p>	
置き場	<p>日当たりと風通しのよい棚の上などに置きます。 注土やコンクリートの上に直接置かないようにします。 ナメクジ対策として、スノコか棚の上に置きます。</p>					この時期してください
水やり	水苔や用土が乾いてきたときは水を鉢底から出るぐらいたっぷりとやります。			十分に水やりする。※水やりが 注 腰水はしない！（夏場は水温また、ウイルス感染の原因にな		
肥料	野草に多肥はよくありません。植え込み時に元肥を入れてあれば花後にごく薄い液肥（1,000～2,000倍程度）を2回程度与えれ					
病虫害	芽出し後に、アブラムシ、アザミウマ、ナメクジ、ウイルスなど市販の殺虫剤を、芽出し後は月1回、花茎が上がる5～7月頃は（特に花芽には、注意！）					

※その年の気候、品種、日当たりなどの条件によって開花等の時期は前後

※培養土は、新しい水苔を使い、毎年植え替えます。

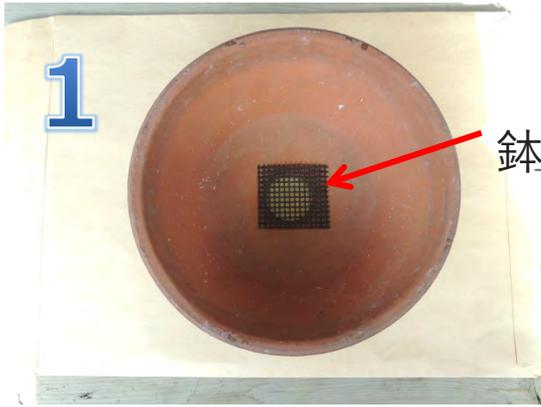
※他に、鹿沼土、赤玉土等を試用する事が出来ますが、球根を増やすには

7	8	9	10	11	12
 <p data-bbox="81 685 549 770">開花</p> 	 <p data-bbox="560 887 927 972">枯れる</p>		<p data-bbox="957 331 1485 488">※花が枯れたら摘み取ります。(花後に種ができると球根が育たなくなるため)</p>	 <p data-bbox="1086 786 1481 871">新球根が出来る</p>	
<p data-bbox="65 1032 708 1133">は、強い日差し（特に西日）は遮光 さい。</p>		<p data-bbox="762 1032 1469 1133">花後は茎が枯れるまでは日当たりと 風通しに留意して下さい。</p>			
<p data-bbox="65 1178 687 1335">出来ないときは日陰へ。 が上がり、ダメージを与えま ります。</p>		<p data-bbox="762 1178 1481 1290">水苔や用土が乾いてきたときは水やり をする。</p>			
<p data-bbox="65 1352 687 1453">花後まで水やりだけで十分です。 ば十分です。</p>					
<p data-bbox="65 1480 600 1581">の害にあうことがあります。 週1回散布しましょう。</p>					

します。

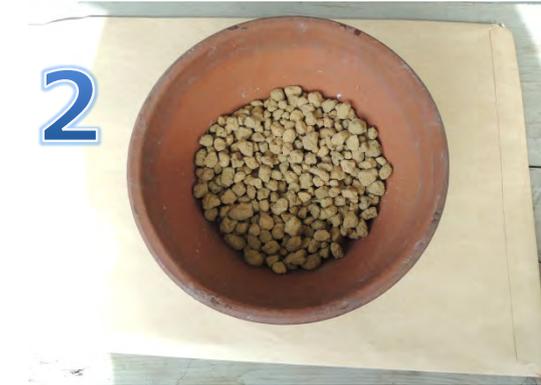
水苔単用で栽培すると良い結果が得られます。

植え方



鉢底ネット

※使用済みの鉢を使うときは、よく洗い、熱湯・天日干しなどで消毒する。



鉢底ネットがずれないように指で押さえながら鉢に赤玉土（中粒）を入れます。（目安：鉢の1/3くらい）



水苔を薄く敷きます。（目安：1～2 cmくらい）

※水苔を十分に湿らす。木片等のごみは取り除き、長いものは3 cm 程度に切る。



元肥（マグアンプK等）を入れます。（目安：少々、1 g 以下）



※肥料は多過ぎると成育障害、水苔の腐り等が生じます。特に与えなくても花は咲きます。



元肥の上に薄く水苔を乗せます。

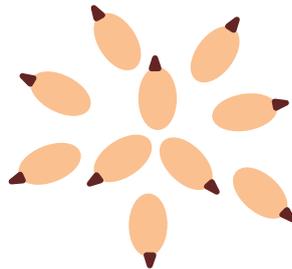
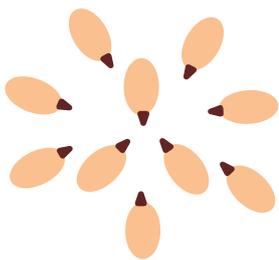
※球根と元肥が直接ふれないようにするため。

水苔の上に球根を置きます。
(2 ~ 3 cm 間隔)

※写真の鉢は大きめのものです。講習会ではこれより小さい5号鉢を使いますので、植える球根の数は写真の数より少なくなります。**注意**球根の先が黒くなっていることがあります。取り除いたりしないでください。

●芽を中心に向けた場合

●芽を外側に向けた場合



球根の上に水苔をかぶせます。
(目安：3 ~ 3.5cm)

※球根が動かないように、そっと水苔をのせ、球根が見えなくなったら、しっかりと水苔をかぶせて上から軽く押さえつけます。

※特に、縁のところはしっかりと押さえます。水苔がしっかりと締まっていれば根張りもしっかりし、花茎が曲がらない。ふわふわだと根は伸びやすいが、軟弱になりやすい。

鉢置き場

- 日当たり、風通し共に良い棚の上。
- 日射の強くなる5月上旬頃から明るい日影になる所で。
- 軒下や樹木の下か、午前中は陽が当たり、午後かげる所。(図-1, 2)
- 一日中、日が当たる所では、5月末頃からは、50%程度の遮光シートを掛ける。(図-3)
- 西日は避けるようにします。
- 室内では、光線不足で上手く育ちません。
- 湿度、気温の高い梅雨期に風通しや日当たりの悪い場所では軟弱に育ち、葉の付け根から枯れる枯葉病にかかりやすい。
- 特に、湿度・気温の高い梅雨期に多い。

図-1

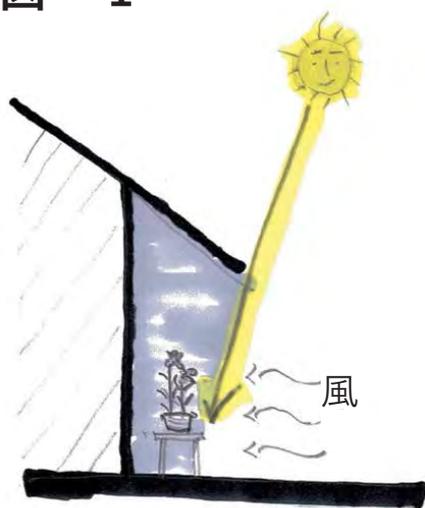
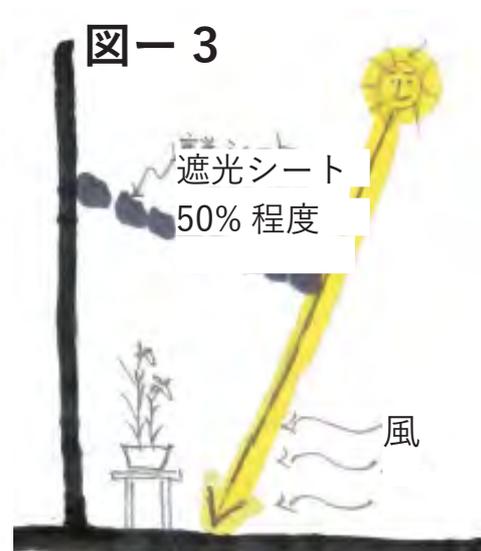


図-2



図-3



風通しを良くするため壁等から出来るだけはなす



姫路市立手柄山
温室植物園屋上栽培場
(屋根・壁：50%
遮光シート張り)

日常の管理

※灌水

植付後は、雨の日以外毎朝たっぷりあげる。生育期に水を切らすと、根が黒変して枯れてしまいます。又、湿っているからといって水やりを怠ると、鉢内が蒸れてしまい枯れてしまいます。

梅雨後の暑い時期は朝夕2回あげるようにします。これは鉢内が蒸れるのを防止します。

サギソウは湿地の植物なので、水のあげすぎという事はありません。

腰水は出来るだけ避けましょう。夏場、腰水が高温になり鉢内が蒸れてしまいます。又、ウイルスに感染する危険もあります。

※虫害， ウイルス病の予防

4月下旬に芽が出るとアブラムシがつくことがあるので注意し殺虫剤等を散布します。これはウイルス病の予防のためにも必要です。

5月初旬からは月に2回程度、花茎が上がって来たら、週1回程度殺虫剤を散布します。これは近年、アザミウマやナモグリバエの被害が多くなり折角の蕾を食害され花が咲かない事が多々見られるので、虫害を防ぐためには散布する必要があります。



花茎：

葉が5枚出た後立ち始める



参考

- ・ベニカXファインスプレー
- ・ベニカグリーンVスプレー

栽培のポイント

「さぎそう」の栽培は難しいと思われていますが、下記のポイントを外さなければ簡単に栽培することが出来ます。

湿地の植物なので、自生地環境に近い、風通しの良い、夏の高温期は用土の温度が高くならず、乾きにくい環境を作ると良く咲きます。この環境を地植えで満足させる事は中々困難ですので、鉢植えがおすすめです。又、西日は避けるようにします。

肥料は、植込み時に元肥を入れてあれば水やりだけで十分ですが、花後にごく薄い液肥（1,000～2,000倍程度）を1・2回あげて翌年の為に球根の充実を図る様にします。（例えば、1,000倍の場合はハイポネックスを5cc取って5ℓの水で薄める。）

水苔植えの場合には、毎年植え替えることが重要です。これは、水苔が2年もすると腐ってしまう為です。

よくある質問

Q 1. 球根の掘上時期はいつ頃が良いですか？

A.

慣れないうちは1月下旬から2月中旬が良いと思います。2月中旬を過ぎると芽が動き出し、慣れないと芽を欠いてしまい駄目になってしまいます。又、掘り上げたら直ぐに植え付けて良いし、芽が出なければ1ヶ月程置いて良い、但し、濡らした新聞紙にくるみ鉢などに入れて涼しい場所で保存するか、ジップロックなどに入れ冷蔵庫で保存してください。

Q 2. 植え付け用土は？

A.

管理のし易さ、水持ちの良さ、翌年の球根の出来を勘案すると、水苔単用がお勧めです。その他の用土としては、小粒の赤玉土、鹿沼土等がありますが、いずれの場合も単用ではなく、細かく刻んだ水苔を混ぜ、保湿性を高めた方が良いと思います。

何れの用土でも「さぎそう」は湿地の植物なので、保湿性の高い用土を好みます。

夏場は用土の温度が高くない様にします。

Q 3. 圧縮された水苔の戻し方は？

A.

水で戻す場合は、一晩たっぷりの水に漬けてください。早く戻したい時は、ぬるま湯で一時間位つけてください。

Q 4. 鉢置き場は地面より高い所に置くようにとの事ですが、どの位ですか？

A.

30cm～90cm位のスノコ状の棚上（ビール瓶ケースを逆さにした位より上）が良いと思います。

Q 5. 夏場の管理はどのようにしたら良いですか？

A.

葉焼けを防ぐため、6月下旬頃からよしずか寒冷紗（遮光率50%～70%程度）を棚の上30cm～50cmに掛けるか、半日陰に置くようにしてください。

また、水は鉢底から出るくらい、たっぷりとあげてください。

Q 6. 肥料として米のとぎ汁を与えても良いでしょうか？

A.

米のとぎ汁は米糠の薄い水溶液ですので、十分発酵させた上で与えることは良いかもしれませんが、出来れば与えない方が良いでしょう。米のとぎ汁は庭などに撒く事をお勧めします。

米のとぎ汁のデメリットは下記の様な事が考えられます。

1. 鉢の用土を固めてしまう。
2. 虫が寄り付きやすくなる。
3. カビが生えやすくなる。
4. 発酵により窒素飢餓・ガス害が起きる可能性がある。

病虫害

2020.07.20-23 撮影

首折れ : ナモグリバエと思われる幼虫による被害



全体



幼虫・蕾



幼虫・拡大



蕾・拡大



蛹 拡大
花茎内部で蛹化する



成虫

つぼみの黒化：アザミウマ幼虫？によると思われる被害



2015.7 撮影

蕾が開き始めると花卉の隙間から入り込んで加害します。
蕾の時期に加害されると開花せずに蕾は黒く萎れてしまいます。

アザミウマはアブラムシなどと同じ吸汁性の害虫で、植物の汁を吸います。



成虫



幼虫

サギソウのウイルス病



撮影：2017.9.2_ 姫路市立手柄山温室植物園にて

サギソウモザイク病が疑われる株

サギソウのウイルスについては、サギソウモザイクウイルスとカボチャモザイクウイルスが知られています。

参考「インターネット版日本植物病害大辞典
病害新情報__（株）全国農村教育協会」

ウイルス病は茎葉が萎縮したり、ねじれたり、花や葉にモザイク斑やえそ斑を生じる全身的な病気です。予防薬も治療薬もありませんから、感染を回避するため、植替え時には古い鉢や病株を扱った手などから伝染するので事前に消毒が必要です。又、栽培時にはアブラムシを防いだり、接触や汁液による感染に気を付けます。

罹病が疑われる株は早めに抜き取り、廃棄する。廃棄出来ない貴重な株の場合には、他の株とは完全に分離して管理する。

サギソウモザイクウイルス *Habenaria mosaic Virus*(HaMV)

下葉には明瞭なモザイクを生じ、葉はやや細くよじれを起こして生育が悪くなる。葉に退緑斑とともに針点状の黒点や長形のえそ斑点を生じ、葉はやや萎縮する。(サギソウモザイク病)

カボチャモザイクウイルス 2 *Watermelon mosaic virus*(WMV2)

葉にモザイク及び変形とよじれを生じる、時にえそを伴うことがある。株全体が矮化する。(サギソウ萎縮病)

注：ウイルスに罹りやすい洋ラン等の側に置かない。

その他の病気

肥料過多による生育障害、日照不足による萎縮の他立枯れ病、枯葉病、軟腐病などが知られています。

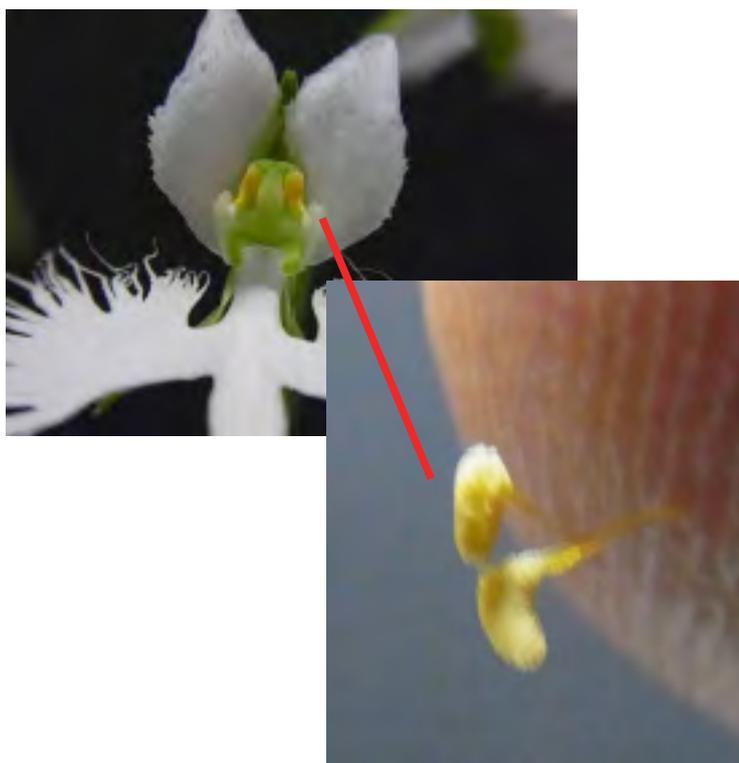
花後の手入れ

- 2月に植付てから約5ヶ月ようやく花が咲きました。
- 花を楽しんだら、新しい球根作りに挑戦しましょう。
- 上手に育てると球根は2～3倍に増えます。
- 今年花を着けなかった株も新しい球根を育てています。



花を長持ちさせる為に

花は通常、10日から14日程度持ちますが、次のような注意をすると花が長持ちします。



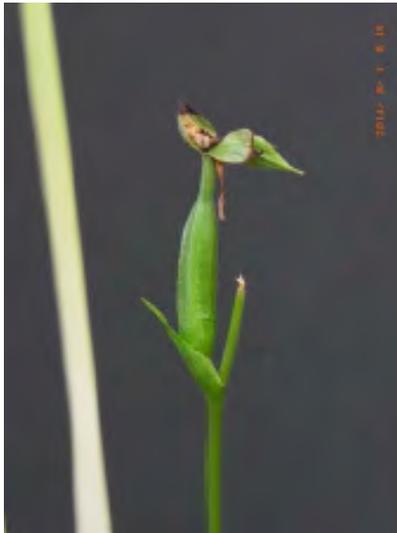
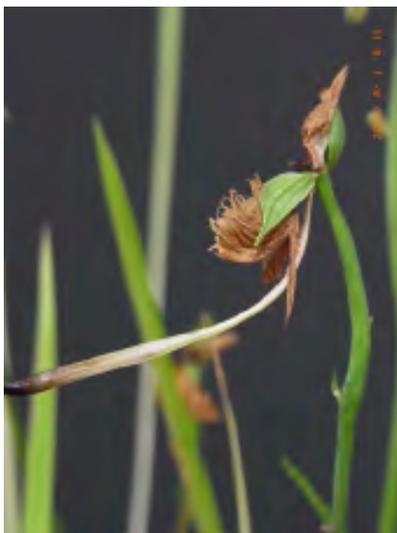
- 花が咲き始めたら雨に当たらないようにすると花持ちが良くなります。
- 室内で鑑賞する場合は2～3日に1度は外に出して日に当てて下さい。
- 花がすぐに枯れてしまう場合は、受粉してしまったので、これを避けるために、開花直後、人差し指で花の中心にそっと触れて花粉塊を取り除くと、長期に渡って花を楽しめます。

手入れ（花柄摘み）

花が黄ばみ始めたら、その都度茎を残して花柄を切り取ります。



受粉した状態



発芽（播種後4ヶ月）

受粉翌日花が枯れる 受粉後 10 日

子房が膨らみ始めている

- ・ 受粉して花柄を摘まないと種が出来、新しい球根に肥料がいなくなるので種子をとる目的以外は花柄を摘む様にして下さい。
- ・ 種子からの繁殖には無菌培養や次亜塩素酸溶液による滅菌などで可能ですが、花が咲くまで2・3年掛かるので、ウイルスフリーの株を得るため以外は、球根を肥培・増殖する方が効率よく増やすことができます。

手入れ（花後）



枯れた状態

- 花後は元の置き場所に戻し、葉と茎は10月中旬頃まで青々とした状態を保つよう心掛けて下さい。
- 地上部が枯れても翌春迄、鉢は湿った状態を保って下さい。（枯れた地上部はカットし、鉢上に敷くと良い）
- 邪魔でなければ、翌春迄置き場所を変える必要はありません。
- 等々力地区であれば冬の対策は特に必要ありません。

追肥（お礼肥え、9月～10月頃）



- 1,000～2,000倍に薄め、花後に1～2回程度施してください。
- 特に追肥を施さなくても翌年の花は咲きます（1球当り1～3花程度）。
- 肥料過多になるよりは、無肥料の方が安全です。

参考：ハイポネックス原液
（ハイポネックスジャパン）等

植替え（球根の堀上、1月～2月頃）



鉢から出して裏返した状態
新しい球根が見えます



球根を取り出した状態10球が
一年で25球に増えました

- 出来れば、2月中旬迄に堀上げる方が芽が出る前で安全です。
- 掘り上げた球根は、新鮮な水で芽を損なわない様に軽く洗って、ザルに上げて下さい。
- 掘り上げた球根を直後に植え込まない場合は、湿らせた水苔かキッチンペーパーに包みビニール袋に入れ冷蔵庫に保管するか、濡らした新聞紙に包み空き鉢に入れ屋外の軒下などで保管します。
- 冷蔵庫に保存した球根は、1～2週の内には植えてください。家庭用冷蔵庫では低温状態を保つのが難しいので、芽が出て来てしまい植える時に芽を傷つけやすくなります。

サギソウ伝説

今から400年以上も昔、世田谷城主 吉良頼康（きら よりやす）には奥沢城主 大平出羽守（おおひらでわのかみ）の娘で常盤（ときわ）という美しい側室がいました。常盤姫は頼康の愛を一身に集めていましたが、それをねたましく思った側妾たちは、つくり話によって頼康につげ口をしました。

度重なるつげ口から頼康もそれを本気にして常盤姫に冷たくあたるようになりました。愛情を疑われ、悲しみにくれた姫は死を決意し、幼い頃からかわいがっていた白さぎの足に遺書を結びつけ自分の育った奥沢城へ向けて放しました。

白さぎは奥沢城の近くで狩をしていた頼康の目にとまり、矢で射落とされてしまいました。白さぎの足に結んであった遺書を見て初めて常盤姫の無実を知りいそいで世田谷城に帰りましたが、すでに姫は息をひきとっていました。

その時、白さぎの血のあとから、一本の草が生え、サギに似た白いかれんな花を咲かせました。これがサギソウと呼ばれるようになったのです。



昭和43年、東京100年を記念し、区民から一般公募し、世田谷区の区の花「サギソウ」が制定されました。

世田谷区立八幡中学校壁画 田中正秋画（1982年）

常盤姫

昔、世田谷地方一帯の領主で、足利将軍の一族であった吉良氏が、今豪徳寺のある所に城を構えていた。

吉良氏七代目の頼康は、ある雪の朝、狩に出て、奥沢城の近くで白鷺を射落とした。見ると白鷺の足には結び文があって、

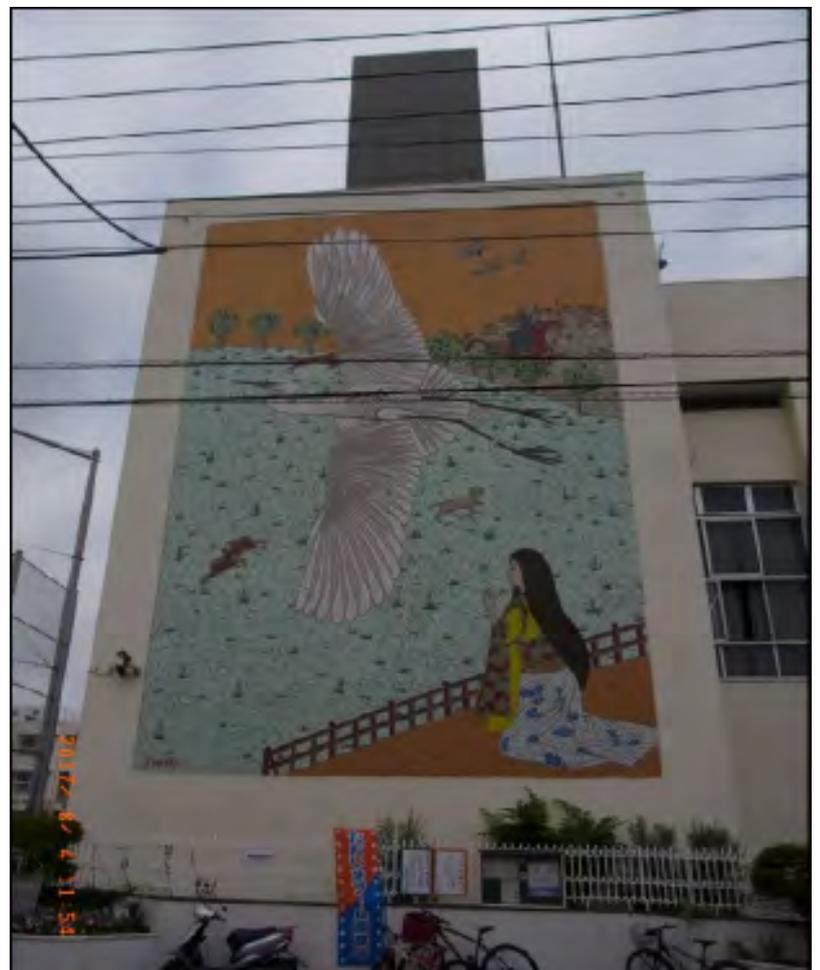
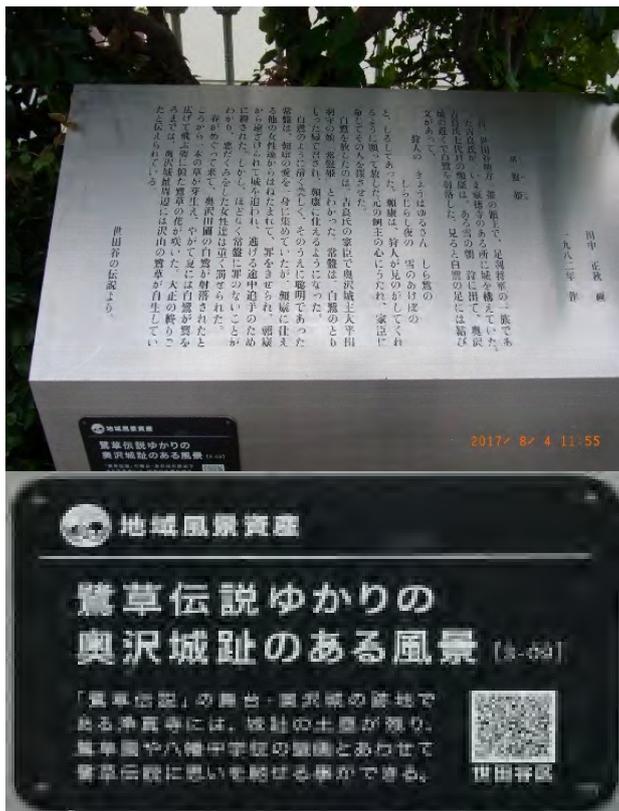
「狩人の きょうはゆるさん しら鷺のしらじらし夜の 雪のあけぼの」と、しるしてあった。頼康は、狩人がみのがしてくれるように願って放した元の飼主の心にうたれ、家臣に命じてその人を探させた。

白鷺を放したのは、吉良家の家臣で奥沢城主大平出羽守の娘「常盤姫」とわかった。常盤は、白鷺のとりもった縁で召され、頼康に仕えるようになった。

白鷺のように清く美しく、そのうえに聡明であった常盤は、頼康の愛を一身に集めていたが、頼康に仕える他の女性達からはねたまれて、罪をきせられ、頼康に殺された。しかし、ほどなく常盤に罪のないことがわかり、悪だくみをした女性達は重く罰せられた。

春がめぐって来て、奥沢田圃の白鷺が射落とされたところから、一本の草が芽生え、やがて夏には白鷺が翼を広げて飛ぶ姿に似た鷺草の花が咲いた。大正の終りごろまでは、奥沢城址周辺には沢山の鷺草が自生していたと伝えられている。（世田谷の伝説より）

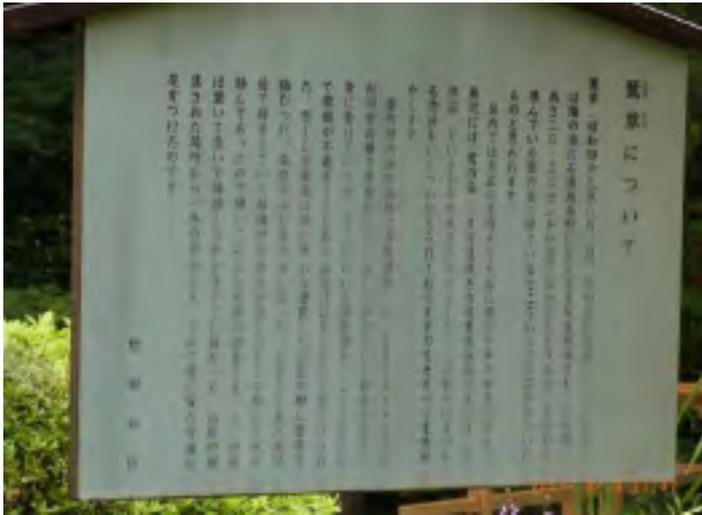
（案内板の説明文による）



九品仏浄真寺のさぎ草園

九品仏浄真寺は「鷲草伝説」のヒロイン常盤姫の父親である、大平出羽守の居城と言われている奥沢城の址であり、世田谷区がその一部にさぎ草園を設けました。

さぎ草は、毎年業者が花の時期に植え込んでいます。
2017年は青葉と銀河の混植でした。



世田谷区区道上のさぎ草



サギソウを郷土の花としている自治体

自治体名	呼称	備考
東京都世田谷区	区の花「サギソウ」 (昭和 43 年制定)	現在、自生地は確認されていません。
兵庫県姫路市	市花サギソウ	市内 6 か所で自生が確認 (2020 年) されています。
福島県麻耶郡猪苗代町	町の花「サギソウ」	
栃木県宇都宮市河内地区	河内地区の花「サギソウ」	宇都宮サギソウ愛好会が河内地区の花として保全・継承しています。毎年展示会を開催
福島県石川郡浅川町	町の花 / サギソウ (昭和 55 年制定)	現在、町内での自生は確認されていません。
徳島県三好市	市の花「さぎそう」 (平成 20 年制定)	徳島県の文化財に指定されている黒沢湿原に昭和末まで湿原の広範囲に咲いていたのですが、乱採によって消滅寸前になりました。そこで地元の林業研究グループが原種のサギソウをバイオ技術で培養して植栽し、サギソウ園を造って保護しています。

* この他にも、愛知県作手村・兵庫県今田町・徳島県池田町が指定していましたが、平成の大合併で指定解除となりました。



「サギソウ押花」の作り方



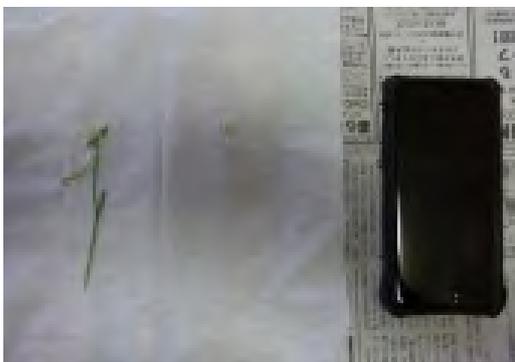
用意するもの

- ・サギソウの花（出来るだけ新鮮なもの）
- ・新聞紙
- ・ティッシュペーパー
（出来れば押花用乾燥シート）
- ・ベビーパウダー
- ・化粧用パフ
- ・アイロン

押し方



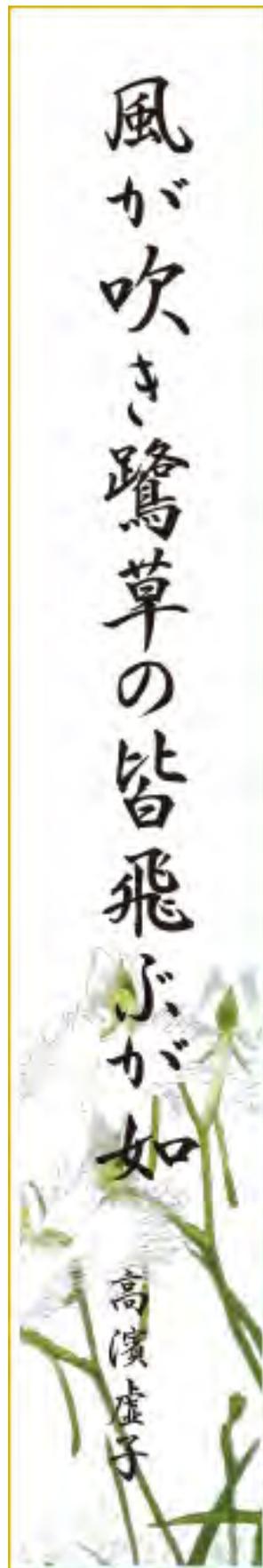
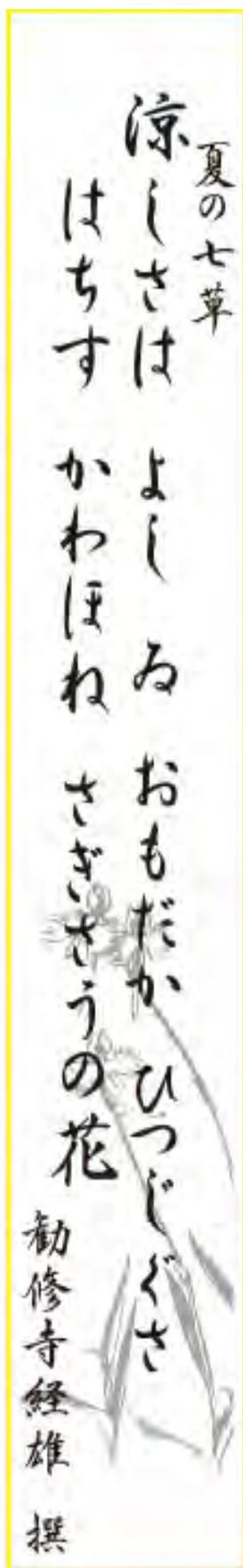
- ・サギソウを白いまま押花にするには、普通の押し方では上手くできません。
- ・低温のアイロンで、薄紙を上に乗せてその上から約30秒押ししてください、次に場所をずらして同じように約30秒アイロンをかけます。
- ・アイロンをかけ過ぎるとサギソウが焦げてしまいます。



- ・薄紙に貼り付いて取れなくなる様なら、ベビーパウダーを少量、化粧用パフ等ではたきます。
- ・最後に軽めの重石をして一日押ししてください。



サギソウを詠んだ和歌・俳句





参考文献

- ※花壇綱目 第1巻 水野元勝他 延宝9年
国立国会図書館デジタルコレクション
(現存する最古の刊本となった園芸書)
- ※サギソウの観察と栽培 木村なほ 昭和55年5月20日
ニューサイエンス社
- ※原色ランのウイルス病 井上威信 2001年3月20日 農山漁村文化協会
- ※サギソウの栽培 世田谷トラスト 世田谷区ホームページ
- ※フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 サギソウ
- ※インターネット版日本植物病害大辞典 病害新情報
(株)全国農村教育協会
- ※武州吉良氏名残の常盤記 平成8年初版、平成25年(増補版)
下山照夫編 岩田書院
- ※世田谷城名残常盤記 昭和36年(1961年)
鈴木堅次郎著 鈴木達発行
- ※姫路市立手柄山温室植物園 「姫路市の花 さぎ草」リーフレット

世田谷区の花 さぎそう

発行日 2021年7月15日 発行

2022年2月16日 第2版

2022年7月15日 第3版

定価 非売品

発行者 等々力地区身近なまちづくり推進協議会

緑化部会

